

研究所だより

第436号
2021年12月 8日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ 垣根の垣根の 曲がり角

たき火だたき火だ 落ち葉たき

あたろうか あたろうよ

北風びいふう ぶいている ”

『 たき火 』 童謡 1941年(昭和16年)



～ 初冬 おおさむこさむ ～

暦の上では7日は大雪。「寒さが一段と厳しくなり、雪も多くなる」という意味。本格的な冬の到来を感じさせる季節になりました。これからはインフルエンザの流行や世界中で警戒が強まっている新たな変異種「オミクロン株」への対応が重要になってくると思います。今は過剰に心配するのではなくて、感染予防対策（マスク着用、手洗い、うがい、換気）を徹底し、健康に過ごすようにしましょう。

(月刊日本教育 8月号) から

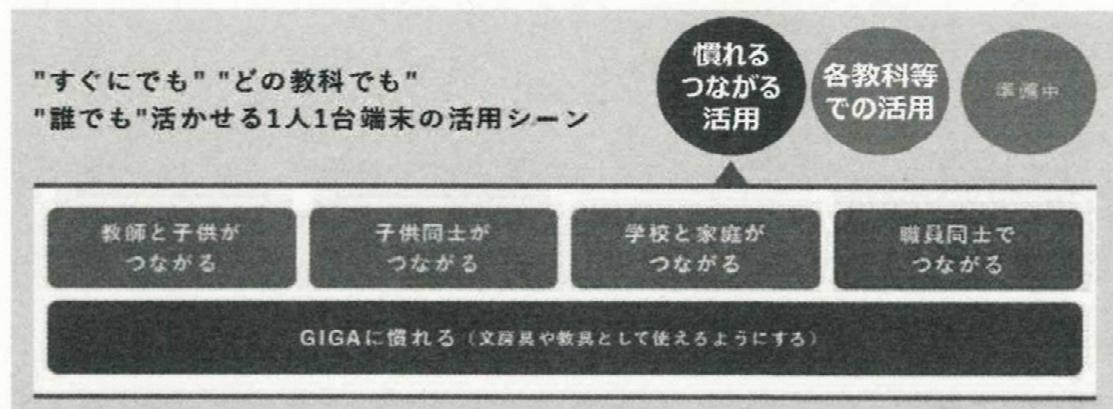
GIGAスクール構想 一人一台端末時代の学校づくり

第4回 ICT活用事例をもとに学び合う

玉置 崇 教授(岐阜聖徳学園大学教育学部)

1. 事例をもとに学び合う

文部科学省はGIGAスクール推進のために、様々な情報を発信しています。その中の一つに、「StuDX Style GIGAスクール構想を浸透させ学びを豊かに変革していくカタチ」というサイトがあります。「すぐにも・どの教科でも・誰でも」活かせる1人1台端末の活用例が紹介されています。



サイトの上部には左図のような5つの項目が示されています。1人1台端末活用の土台として①「GIGAに慣れる＝文房具や教員として使えるようにする」、その上で②「教師と子どもがつながる」③「子供同士がつながる」④「学校と家庭がつながる」⑤「職員同士でつながる」という視点で、全国各地の実践例が集められています。(①～⑤の番号は筆者加筆) このサイトを活用して、次のように教職員同士で学び合うとよいでしょう。

2. グループでサイトを見て自校活用の視点で話し合う

教職員を5つのグループに分けます。できるかぎり経験年数が異なる者同士で組むとよい話し合いができると思います。

各グループでそれぞれ①～⑤を分担します。各自の端末で分担した項目の実践例を確認して、自分の授業や学校全体で取り組むとよい事例を出し合うとよいでしょう。

その際に、ピックアップした事例を紙に記録することはせず、前回で示したように共有ファイルに書き込むなど、共同作業の利点を生み出すように仕掛けることが重要です。



各グループの話し合いですが、端末を持ち寄って、そのグループの画面を見ながら話し合うとよいでしょう。この方法であれば、教室で容易に実現可能だからです。話し合いの発表に際しては、グループの1人の画面を大型TVに表示する方法があります。これも教室で簡単に実現できます。

このように、研修においては教職員自身が、「GIGAスクール構想＝1人1台端末＋高速ネット回線＋クラウド利用」のよさを体感できるようにすることが大切です。

3. 動画の背景を推測する研修

もう1例、紹介します。ネット上では、すでに多くの実践例動画も発信されています。例えば、YouTubeの「Google for Education」では「子どもたちに教わる気持ちで始めたクラウド・1人1台端末」と題した、授業での端末利用動画が発信されています。

その動画を教職員で見ることだけでも有益ですが、さらに研修の効果を高めるために、動画を基にした質問を出し合うとよいでしょう。

ある動画では、子どもたちが登校したら、充電庫にある端末を自席に持ってきて立ち上げる場面が出てきます。また、授業開始前や休憩中にも自由に端末を活用しているシーンが出てきます。「この学校の端末利用の考え方は、どのようなことだと予想できますか」など、映像の背景にある事柄を考えさせると、自校の在り方を考えることとなります。「我が校も授業時間以外にも自由に端末に触らせたらい」という意見や、「活用場面を制限しないと不安です」という本音が出てくることでしょう。事例動画があるからこそ、こうした意見が出てくるのです。

また、ある教師の端末活用開始時と2ヶ月後のインタビュー動画が出てきます。

「クラウドと言われても、よくわからない状態で、これから勉強しないといけなと思っています」という発言が、2ヶ月後には「私が知らないと思わせないという考え方が間違っていました。子どもたちがドンドン学んでいきます。むしろ子どもに聞きながら活用した方がうまくいくと思うようになりました。子どもたちのこんなことをしたいという気持ちを大切に、それはどのようにするの?と聞くと、子どもたちは私が知らない機能をすぐに教えてくれます」と変化しています。

こうした動画視聴後は、「この先生を変化させたものは何だったと思いますか」などと質問することで、端末活用における教師の基本姿勢があぶり出されます。ぜひ取り組んでみてください。



～第4回教研推進委員会～

11月30日(火)に第4回教研推進委員会が開催されました。半日教研の総括と来年度の教研活動について協議しましたので、その協議内容について簡単に報告します。

1 協議事項

(1) 半日教研〔11/10(水)〕の総括

①日程について

- ・特になし。

②時間構成について

- ・特になし。

③その他

ア清水としての、全部会共通の大きな研究テーマが必要ではないだろうか。

部会ごとのテーマは必要としても、「今年度はこの研究テーマで」という大きな柱があった上で、部会ごとのテーマ(小中連携や高校との連携等)を考えるようにするのが良いのではないか。

イ3学期実施の総括教研の研修については、総括のみですぐ終わるのが現状である(昨年度)。

11月の半日教研では、授業研とその反省会をしても時間は十分あるので、その時に総括も一緒にできる。総括は必要なので、2回目の会で実施するので十分ではないか。

*ア、イの「共通研究テーマ設定」、「総括教研」等について協議し、色々な意見が出された。そこで今年度の総括教研で「共通研究テーマ」「今後の総括教研の在り方」について協議をしてもらい、各部会からの意見を基に第5回教研推進委員会で協議、決定する。

ウ今年度も部会を絞ったが、それでもやはり教員数が減少しているため、研修を深めるのは人数的に難しい。領域別の部会にして、部員数がある程度確保できる中で研修した方が実りあるものになるのではないか。

*協議の結果、この件については毎年協議をし、今年度の部会構成となっている。指摘の通り人数的に厳しいが、現部会でも十分に研修が深められている。毎年の変更ではますます研修意欲の低下につながるのではないか。ということで来年度も現部会構成で、教職員のスキルアップと教育課題の克服に向けて、研究を深めていく。



(2) 2022年度組織・一日・半日教研について

①組織教研

- ・期 日： 5月11日(水)

②一日教研

- ・期 日： 8月 3日(水) 全体会：午前 部会：午後開催予定
- ・会 場： 土佐清水市立中央公民館

③半日教研

- ・期 日： 11月 9日(水)

2 第5回教研推進委員会

- ・期 日： 2022年 2月15日(火) 16:00～
- ・会 場： 教育センター

＜第71次土佐清水市教育研究集会・半日教研特集②＞

11月10日(水)に開催されました半日教研の授業・研究協議等の様子を紹介します。



〔国語〕
三崎小学校
授業者：畠中 明美教諭
研修内容：①授業について
②情報交換



〔外国語〕
清水中学校
授業者：村上 美佳教諭
研修内容：
①「授業づくり講座」授業について
②高校授業について他



〔事務〕
清水中学校
研修内容：①共同実施報告
②タブレット研修他

＝ 教研・研究協力校関係提出物について ＝

○教研各部会 (提出書類)	期 日	○研究協力校 (提出書類)	期 日
*決算書	12月24日(金)	*研究集録原稿	1月28日(金)
*総括教研部会報書	1月28日(金)	*決算書	2月16日(水)
*研究集録原稿	1月28日(金)		

*事業実績については、「清水の教育」に研修内容(一年間の取組等)を記載することで報告とする。